

| | | | |
|-----------------------|--|---------|---|
| 1. 科目名(単位数) | 保育内容 (環境) (2単位) | 3. 科目番号 | SJMP3133 |
| 2. 授業担当教員 | 関 容子 | | |
| 4. 授業形態 | 講義、演習 | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 保育児童学科必修科目。保育士資格及び幼稚園教諭必修科目。 | | |
| 7. 講義概要 | 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する5領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。特に、幼児期において育みたい「資質・能力の三つの柱」の視点を念頭に、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う | | |
| 8. 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 ・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。 ・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。 | | |
| 9. アサシメント(宿題)及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各回に示された内容について、教科書の該当箇所をよく読み、理解して授業に出席する。 2. 事前学習に示された学習課題に取り組んで、授業に出席する。 3. 課題(事後学習)をまとめる。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山静子著『改訂 環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて』郁洋舎 2021 ・宮里暁美著『0-5歳児子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境: 主体的・対話的で深い学びへと誘う』Gakken; New版』2018 ・閣議決定・文部科学省・厚生労働省・内閣府 令和5年度最新版『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 <p>(幼稚園教育要領、同解説書。 保育所保育指針、同解説書。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書。 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省))</p> <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『基礎からまなべる 保育内容(環境)ワークブック』田中卓也・岡野聡子・藤井伊津子他 編著 あいり出版、2021年 <p>その他、適宜資料を配布する。</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得することができた。 2) 子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できた。 3) 子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定する方法を理解することができた。 <p>○評定の方法</p> <p>上記の学習目標に基づいた規準を以下の方法で総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席、参加、発表等から授業に取り組む姿勢 「授業態度」 (20%) 2. 各授業内の課題、中間レポート等 「小レポート」 (20%) 3. 学習内容を総括する課題 「期末レポート」 (60%) | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 子どもたちにとっては、保育者自身が影響力の大きい人的環境であることを自覚し、その時々の子どもの思いを感じ、共感できる良き理解者でありたい。そして、子どもと共に発見を楽しみ、ワクワク、ドキドキする保育者自身の感性も育みたい。子どもの好奇心や探求心が更に深まり、活動が発展するには、どのような環境構成が必要か、グループ発表を通して互いに学ぶ。意欲的にグループ学習に取り組み、豊かな発想を身に付けて欲しい。なお、グループ活動等により、講義内容の進度を調整することがあります。 | | |
| 13. オフィスアワー | 別途通知する。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業概要の説明と進め方) 「環境の必要性」① 乳幼児期の特性と環境構成の重要性 | 事前学習 | 教科書の第1章及び幼稚園教育要領の保育内容「環境」を読み理解する。 |
| | | 事後学習 | 子どもの発達にふさわしい環境について自分の考えをまとめる。 |
| 第2回 | 「環境の必要性」② 子どもの人格形成と保育環境 | 事前学習 | 教科書第1章及び幼稚園教育要領第1章、第2章を読み主体的な学びについて考える。 |

| | | | |
|------|---|------|---|
| | 保育の専門性に基づく環境構成 | 事後学習 | 子どもにとってふさわしい経験が積み重ねられるために、保育者に求められる視点について考える。 |
| 第3回 | 「環境構成とは何か」① | 事前学習 | 「環境を通して行う」保育の意味を考える。 |
| | | 事後学習 | 子どもを取り巻く人的環境について自分の考えをまとめる。 |
| 第4回 | 「環境構成とは何か」② | 事前学習 | 環境構成の場面や要素について考えてみる。 |
| | | 事後学習 | 情緒の安定、発達を促す、安全と挑戦などの視点で環境構成について考えをまとめる。 |
| 第5回 | 「遊びと環境構成」① | 事前学習 | 「遊びを通して学ぶ」意味を考える。 |
| | | 事後学習 | 子どもが自ら環境に関わり、自発的に活動したくなるためには、何が必要かを考える。 |
| 第6回 | 「遊びと環境構成」② | 事前学習 | 発達に応じた遊びの場面を考えてみる。 |
| | | 事後学習 | 遊びの素材や、活動欲求の充足と挑戦について自分なりの考えをまとめる。 |
| 第7回 | 「遊びと環境構成」③ | 事前学習 | 遊びのイメージを生み出すものについて考える。 |
| | | 事後学習 | イメージの広がりや活動が発展するために必要な環境構成について考えてみる。 |
| 第8回 | 「生活と環境構成」 | 事前学習 | 保育施設の生活場面の環境構成について考えてみる。 |
| | | 事後学習 | 発達に応じた生活用品の選択と環境構成について考えをまとめる。 |
| 第9回 | 「子どもの発達と環境構成」① | 事前学習 | 子どもの発達段階について、特徴を押さえてくる。 |
| | | 事後学習 | 事例を通して、子どもの姿から環境を構成することを学ぶ。 |
| 第10回 | 「子どもの発達と環境構成」② 0・1歳児クラス・2・3歳児クラスの 保育環境について | 事前学習 | 1歳半まで及び、1歳半から3歳半の子どもが興味、関心を示すこと、経験させたいこと。また、安全のため留意すべき視点について考えてくる。 |
| | | 事後学習 | この時期の子どものふさわしい環境構成について自分なりの考えをまとめる。 |
| 第11回 | 「子どもの発達と環境構成」③ 3歳以上児の保育環境について | 事前学習 | 3歳半から6歳頃までの子どもが興味、関心を示すこと、経験させたいことについて考えてくる。 |
| | | 事後学習 | この時期の子どものふさわしい環境構成について自分なりの考えをまとめる。 |
| 第12回 | 子ども主体の保育となる感性を育む保育環境① 保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについてグループごと発表する。 | 事前学習 | 子どもの気付きから活動の展開まで、子どもはどのようなことが楽しく、どのようなことがあればもっとおもしろくなると思うか。この経験を通して、何を学んでいるのか、環境構成や配慮事項なども踏まえたプレゼンができるよう、パワーポイントでの発表の準備をする。 |
| | | 事後学習 | 発表後のディスカッションを通して得た新たな視点について考えを深め、保育者の柔軟な感性が子どもに与える影響について考えをまとめる。 |
| 第13回 | 子ども主体の保育となる感性を育む保育環境② 保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについてグループごと発表する。 | 事前学習 | 子どもの気付きから活動の展開まで、子どもはどのようなことが楽しく、どのようなことがあればもっとおもしろくなると思うか。この経験を通して、何を学んでいるのか、環境構成や配慮事項なども踏まえたプレゼンができるよう、パワーポイントでの発表の準備をする。 |
| | | 事後学習 | 発表後のディスカッションを通して得た新たな視点について考えを深め、保育者の柔軟な感性が子どもに与える影響について考えをまとめる。 |
| 第14回 | 保育施設における環境構成の実際について 現場の保育者から学ぶ。 | 事前学習 | 当該保育施設について調べてくる。 |
| | | 事後学習 | 子ども理解と保育者の見通し、日々の環境構成における工夫と留意事項など、具体的な取り組みについてまとめる。 |
| 第15回 | 子どもたちの主体的な活動を促し、 豊かな経験が積み重ねられる『環境』について まとめとレポート | 事前学習 | これまでの学びを振り返り、子どもたちの育ちに必要『環境』について、考えをまとめてくる。 |
| | | 事後学習 | 保育内容『環境』と、子どもの育ちとの関係について、自分なりの考えをまとめる。 |